

専門研修プログラム（小児・神経障害系コース）評価項目

（経験すべき病態・疾患と理学療法または作業療法）

研修生氏名 _____ 指導責任者氏名 _____ 提出日 _____

専門研修プログラム評価項目（経験すべき病態・疾患と理学療法または作業療法）

研修の目的は、疾病と病態に応じた専門的検査所見に基づいた身体機能評価及びそれに対応する専門的理学療法または専門的作業療法を的確に行う能力を獲得することにある。

必修項目：別に定める疾患、症例における検査測定評価、治療方針について年間3症例のレポート提出

【専門研修プログラム 小児・神経障害系コース】

1 医療面接

患児・家族との信頼関係を構築し、理学療法評価または作業療法評価及び理学療法・作業療法に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

	経験の有無	自己評価				指導者評価					
		A	B	C	U	A	B	C	U		
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、理学療法評価及び作業療法評価に必要な情報の聴取と記録ができる。											

2 検査測定と評価

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる理学療法評価または作業療法評価を系統的に実施し、記載するために、

	経験の有無	自己評価				指導者評価					
		A	B	C	U	A	B	C	U		
1) 運動発達遅滞にかかわる発達評価、その他の機能評価ができる。											
2) 脳性麻痺に関わるルーチン検査ができ、記載できる。											
3) 早産低出生体重児の全身状態を理解した上で、ルーチン検査ができ、記載できる。											
4) 染色体異常の全身状態を理解した上で、ルーチン検査ができ、記載できる。											
5) 小児神経筋疾患の全身状態を理解した上で、ルーチン検査ができ、記載できる。											
6) 小児がんの特性を理解した上で、必要な評価項目を選択し、実施できる。											
7) 担当症例の小児科的管理、医師が行う治療の目標設定とその内容を理解し、評価を実施することができる。											

3 治療

	経験の有無	自己評価				指導者評価					
		A	B	C	U	A	B	C	U		
1) リスク管理の下、全身調整、体力向上運動を目的とした理学療法または作業療法ができる。											
2) 発達促進と機能獲得を目的とした理学療法または作業療法ができる。											
3) 病態に応じた徒手関節治療と装具療法を含む理学療法または作業療法ができる。											
4) 病態に応じた筋力増強運動を含む理学療法または作業療法ができる。											
5) ADL獲得を目的とした運動練習を含む理学療法または作業療法ができる。											
6) 退院後を想定した生活環境の調整と家族指導ができる。											

研修生氏名 _____ 指導責任者氏名 _____ 提出日 _____

専門研修プログラム評価項目（経験すべき病態・疾患と理学療法または作業療法）

研修の目的は、疾病と病態に応じた専門的検査所見に基づいた身体機能評価及びそれに対応する専門的理学療法または専門的作業療法を的確に行う能力を獲得することにある。

必修項目：別に定める疾患、症例における検査測定評価、治療方針について年間3症例のレポート提出

【専門研修プログラム 小児・神経障害系コース】

1 医療面接

患児・家族との信頼関係を構築し、理学療法評価または作業療法評価及び理学療法・作業療法に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

	指導者評価		
	A	B	C
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、理学療法評価及び作業療法評価に必要な情報の聴取と記録ができる。			

2 検査測定と評価

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる理学療法評価または作業療法評価を系統的に実施し、記載するために、

	指導者評価		
	A	B	C
1) 運動発達遅滞にかかわる発達評価、その他の機能評価ができる。			
2) 脳性麻痺に関わるルーチン検査ができ、記載できる。			
3) 早産低出生体重児の全身状態を理解した上で、ルーチン検査ができ、記載できる。			
4) 染色体異常の全身状態を理解した上で、ルーチン検査ができ、記載できる。			
5) 小児神経筋疾患の全身状態を理解した上で、ルーチン検査ができ、記載できる。			
6) 小児がんの特性を理解した上で、必要な評価項目を選択し、実施できる。			
7) 担当症例の小児科的管理、医師が行う治療の目標設定とその内容を理解し、評価を実施することができる。			

3 治療

	指導者評価		
	A	B	C
1) リスク管理の下、全身調整、体力向上運動を目的とした理学療法または作業療法ができる。			
2) 発達促進と機能獲得を目的とした理学療法または作業療法ができる。			
3) 病態に応じた徒手関節治療と装具療法を含む理学療法または作業療法ができる。			
4) 病態に応じた筋力増強運動を含む理学療法または作業療法ができる。			
5) ADL獲得を目的とした運動練習を含む理学療法または作業療法ができる。			
6) 退院後を想定した生活環境の調整と家族指導ができる。			